

♥読み物企画 vol.2「活躍の場を広げ、マルチクリエイターに」♥

人気少女雑誌『ジュニアそれいゆ』で挿し絵、連載、表紙などを手掛け、人気イラストレーターへと成長したルネ。同誌でもファッションや手作りの提案や、人形作家としての活動もしており、1959年には、初の単行本『こんにちは！マドモアゼル』を出版。1960年に同誌が休刊となる頃には、多くの出版社の学年誌、その他の少女雑誌へと活躍の場を広げていきました。

学年誌では数多くの付録を担当。「女の子が使うならもっとカワイイものを」という気持ちでアイデアを出し、メモ帳、ノート、紙バッグ、シール、メッセージカード、ブローチなど、たくさんの付録を手がけました。その人気は絶大で各誌がこぞって「ルネ先生の◎◎付録！」と表紙で大きく紹介するほどでした。以降は、商品として文房具やシールなどのステーションナリーを多くデザインし、ファンシーグッズの生みの親とも称されるようにもなりました。



『りほん』『なかよし』『少女ブック』『少女クラブ』などのさまざまな雑誌の付録を企画から担当。



1970年代に大人気となった『アクセサリシール』。家の冷蔵庫や勉強机、お部屋の窓など、さまざまな場所が可愛くデコレーションされました。何でもデコって可愛くしたい、という今のティーンにも通じるものがあります。

その後もルネの活動の幅は生活雑貨、インテリアにまで広がっていきます。卓袱台や茶筆筒が当たり前だった1970年には、『服装』（婦人生活社）の連載で、自らペンキで塗った白い飾り棚や白い家具を紹介。今ではその家庭にもある白い家具の魅力にいち早く気づき、日本にリビングという概念をもたらしたのもルネの功績とされています。その後も、数々の陶器やダイニング用品など、ルネ独自のセンスで生活に密着したアイテムをデザインし続けました。



“珍しいもの、新しいもの、見たことがないものを追い求めて生きてきました。

今でも探している。どうしたらみなさまに、夢のようなショックを差し上げられるかと”（内藤ルネ）



陶器に関しても、全てルネが監修。それらの指示書にはもっと丸みを出す、明るい色になど、細かい指示が書き込まれ、商品への強いこだわりが感じられます。

日々の暮らしで「こんなものがあつたらいいのに」と、感じたことをそのまま形にし、私たちの生活をより豊かなものに、そして潤いを与えてくれたのが、マルチクリエイターとしての内藤ルネなのです。

♥新商品情報♥ ★岡崎市のルネマンホールが記念メダルになって登場★

“マンホール女子”などの言葉が生まれるほど、今やデザインマンホールは注目のコンテンツとなっています。さまざまなマンホールグッズも商品化されているなか、合資会社コレクション様からルネマンホールが「記念メダル」として発売されました。

現在、岡崎市の市内7か所に設置されている7色全てのルネマンホールがラインナップ。ルネのファンはもちろん、コレクターズアイテムとしても注目を集めそうです。



31mmサイズの記念メダル。各色900円。
<https://collection.booth.pm/items/2798555>